平成３０年度　山口県看護協会保健師職能集会及び３職能合同集会報告

平成３０年７月１日（日）午前に保健師職能集会を開催しました。２７名参加のもと、山口県保健師職能委員長より平成２９年度事業報告・平成３０年度事業計画等報告の後、「保健師カフェ」で交流しました。

今回の保健師カフェは、①ワーク・ライフバランス②保健師間の連携③キャリア形成のテーマの中から各自話したいテーマのテーブルにつきお茶を飲みながら、それぞれの職場の取り組みの情報交換や交流を行い、地域、所属を超えた保健師同士のつながりを広げる有意義な時間となりました。

～保健師カフェ参加者の感想～
（アンケートより抜粋）

- 仕事内容などだけでなく、個人の思いなども聞けてとても参考になった。(20 代事業所)
- 他の方の話を聞くことで、同じ思いを持っていることを共有でき「また頑張ろう」と思うことができた(40 代県)
- 連携をテーマにしたグループでしたが、結局は顔の見える関係、つながりが大切ということになり、今回のような研修やカフェもその一つになればと思いました。(40 代県)
- かまえず話ができてよかった。(50 代市町)
- いつも話せない方々と交流ができて楽しかった。(50 代県)

午後からは、今年度初めての試みとして、3職能合同集会を開催しました。総勢152名、保健師職能からは50名が参加しました。

まず、『「生活」と保健・医療・福祉をつなぐための看護職の役割～住み慣れた地域で暮らし続けるために～』をテーマに公益社団法人日本看護協会副会長齋藤訓子氏に基調講演をいただきました。看護をとりまく医療・介護施策の動向や方針、生活者のQOLを目指し、切れ目なく看護をつないで支援していくことが求められていることが理解できました。続いて、「地域包括ケアを語る」をテーマにシンポジウムを行いました。保健師職能の山口市有田稔子健康福祉部長さんをはじめ各職能のシンポジスト4名から、各所属の活動報告と今後の医療・介護と地域の連携について発表していただきました。地域の中で組織を超えた看護の連携に向け、今回のように多職種の研修会でお互いの機能・役割を理解していくことの必要性を感じました。

～３職能合同集会　保健師参加者の感想～
（アンケートより抜粋）

- 地域包括ケアを考えたとき、３職能合同での集会は有意義だった。
- 職種は違っても、最終的な目的は同じであるため、連携をとり、協働していくことが大切だと思った。
- 保健師の活動としては今までの活動ではあるが、看看連携も意識して取り組みたい。
- 担当地域内で情報交換できるとよいと思った。
- 職場・職種を超えて連携する機会は、看護協会だからこそできる取り組みだと分かった。

平成30年7月　山口県看護協会保健師職能委員　柳井